

クリストフ・ソーターの

「ビヤーンヴェニユ・アン・スイス」

～僕の思い出～



鏡野町の皆さんへ

最後になりました！あっという間に2年が経ったなと強く感じます。スイスに帰る準備を始めようとしても、なかなか準備が始められません。フランスには「良い事でもおわりがある」と言うことわざがあります。まずはこの2年間を通して私の記事を読んでくれた鏡野町の皆さんに感謝したいと思います。そして、今回、最後の号はこの2年間の思い出を書きたいと思います。

田舎の暮らし

“とても田舎ですよ！”と鏡野町にくる前に何度も言われましたが、日本に行きたくて、行きたくて、たまらなかったので、『大丈夫！』と言ってここ鏡野町にやってきました。ちなみに、来てみて『本当に田舎だ！』と思いました。ジュネーブで生まれ育った私は、今までの都会生活と全く違う環境で暮らす事になり、そして住み出してから早くも、都会の雰囲気恋しくなってきました。

しかしながら、鏡野町に着いてすぐ、登山靴を履いてあちこちに行ったら、たくさん自然や風景の美しさ感激しました。そして、鏡野町の方々と出会って、みんなの暖かい歓迎にとっても安心した上に、都会と田舎の暮らしの大きな違いに気づきました。田舎の人々は生活の中に、近所の人々を無視せずに、声をかけたり、野菜や食べ物をあげたり、気を使い合う人が多いと思い、すばらしい事だと感じました。それはジュネーブに帰っても活かしたい事だと思いました。そして自然に近い場所で生活して行きたいとも思いました。鏡野町の風景や人々の優しさは一生忘れられない思い出になりました。

学校訪問

鏡野町にきて初めて、子供達に教えるという事を体験しました。スイスの国や料理を紹介したり、英語を勉強したり、様々な授業を考えて子供たちと一緒に楽しい時間を過ごせました。最初の授業は何を言おうかと迷っていましたが、時間が経てば、自分の教えるスタイルを見つけて授業が楽しめるようになりました。更に、スイスの紹介をする時、子供達が私の話をよく聞き、質問を熱心にしてきました。その時には『スイスへ行って見たいな』と言う声が聞けて、外国に心を広げてくれたなと嬉しく思いました。また私の母国語は仏語なので日本語で説明したり、英語をわかりやすく説明し教えるのは大変でしたが、様々な学習を考え、そしてその授業が面白い！英語の勉強が楽しい！と言う子供達がたくさんいて嬉しかったです。

そして、数々の学校イベントにも招待していただき、なかでも、餅つきや運動会、スイスで経験できない日本文化が体験でき忘れられない思い出となりました。鏡野町の先生方、子供達に、心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

国際交流

去年の10月に鏡野町のグループと共にスイスで5泊6日を過ごし、イヴェルドン市でホームステイも体験し、スイスの風景と生活に触れ、参加者の皆さん、イヴェルドン市の皆さん共に素晴らしい国際交流ができたと思います。

また、鏡野町が合併してから、中学生海外体験事業の行き先がシンガポールになり、引率者として2回シンガポールに行かせて頂きました。中学生には海外に行ける良いチャンスになり、外国の生活を体験しながら自分の英語能力やコミュニケーション力が上達する良いきっかけになったのではないかと感じました。日本とシンガポールの中学生と一緒に遊んでいるのを見て、何よりもこういう国際事業は子供達に豊かな影響を与える事業だと感じました。

鏡野町には他の町にはないスイス、シンガポールという二つの国際交流ルートがあるので、これらを活かして町民の方々や子供達に、素晴らしい国際交流を続けて行ってほしいと思いました。

未来へ

私は8月にスイスに帰ります。でも日本とサヨナラになる訳ではありません。妻と一緒にジュネーブで生活しますが、スイスと日本との交流をこれからも大切に考え、もっと交流を深められるように何か出来れば良いなと思っています。まずは、鏡野町で始めた和太鼓をスイスでも続けたいので、ジュネーブの活動グループに入ろうと思います。そして日本でできた、新しい家族だけではなく、たくさん友達も、みんなをスイスに歓迎したいと思いました。日本は私の2番目の故郷になったので、戻って来る機会が多いと思います。いつかどこかで私の姿を見かけたら、ぜひ“クリス”と声をかけてください！

それでは、最後のフランス語の言葉です。「Prenez soin de vous !」（ブゴネ ソワン ド ヴ）は「お体に気をつけて！」を意味します。



奥津溪

では、皆さん、2年間、本当に心からありがとうございました。お元気で！クリスより。